

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

42

今回の見出しは、私が約25年前に聞いた言葉である。その時勤務していたのが長崎支店。長崎は観光地なので、多くの知り合いが遊びに来た。その時には必ず「ハウステンポスに連れて行ってくれ」というオーダーが来た。その案内で聞いたのが、「エコロジー」(生態系)と「エコノミー」(経済)の共生。学生時代には、環境経済学にも触れた。

それから時間が経過したが、自然と経済がどのように共生するのかという課題は、永遠の課題のように思う。

ホテル観賞会

生態系と経済の共生

両方は「こちらを立てれば、あちらが立たず」の関係にあるというのが一般的だが、何とかして両立する方法を

両方は「こちらを立てれば、あちらが立たず」の関係にあるというのが一般的だが、何とかして両立する方法を

と、ポツ、ポツと光る。また、ホテルはなぜ光るのかと聞いたところ、求愛行動というところらしい。人間は言葉があるが、ホテルは光ることでコミュニケーションを取っているの由。生物が光るのは、他にも、外敵から身を守る、餌を取るなど、さまざまな目的があることも教えていただいた。

指す必要があるのだろう。

夏至直後の午後8時前。工場内にある沢に懐中電灯を照らしながら降りていく。徐々に暗くなってくる。高ま

だろうと予想していた場所よりも下流で生息のぼのとした気持ちになった。そして、自然に触れる機会が多い群馬は素晴らしいと思

先月、ある企業の方にホテルの観賞会に誘っていただいた。この企業は、工場内にバイオトープ(生物生息空間)を作られて、ホテルやその餌のカワニナを放流された。当初は社員向けの観賞会を催されていたが、会社を

夏至直後の午後8時前。工場内にある沢に懐中電灯を照らしながら降りていく。徐々に暗くなってくる。高ま

その日は、本当にはのぼのとした気持ちになった。そして、自然に触れる機会が多い群馬は素晴らしいと思



岡山和裕(おかやま・かずひろ) 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。